



第一礼拝次第

メッセージ: 郭永東牧師

前奏			
頌栄	540	会衆	会衆
主の祈り			
プレイズ	「心に感謝を持ちながら」 「あなたは」	会衆	会衆
聖書朗読	ルカ 11:1-4 (新約聖書 p127)	司会	司会
祈賛	美 新生 73	司会	司会
メッセージ	「祈りを教えてください」	司会	司会
祈賛	美 310	司会	司会
献金祈禱		司会	司会
報告		司会	司会
頌栄	新生 672b	司会	司会
祝禱		司会	司会



第二礼拝次第

メッセージ: 渡真利彦文牧師

聖書: 列王記上 18:16-45 (旧約聖書 p563)

メッセージ: 「エリヤとバアルの預言者」

プレイズ: 「ファミリー」「主は陶磁器」

賛美: 新生 6 新生 566



ファミリー礼拝

聖書: Iヨハネ 2:1-17
 メッセージ: 「イエスが歩まれたように」

<巻頭言>

牧師 郭永東

人間は関りを持ちながら生きています。どの人も独りで生きることはできません。ですからアリストテレスは、人間は社会的動物だと言ったでしょう。神様は人間をコミュニケーションを取りながら生きるように創造されたのです。

① 神様とのコミュニケーション

人間が創造されて初めてコミュニケーションを取った相手は神様です。イザヤ 43:21 で「わたしはこの民をわたしのために造った。彼らはわたしの栄誉を語らねばならない。」と人間創造の目的が語られています。つまり、神様を賛美しながら、神様とコミュニケーションを取ることが私たちが存在する理由です。

② 周りとのコミュニケーション

神様はアダムが周りにある動物、植物とコミュニケーションを取るように願っておられました。また、一人であるアダムのためにエバを造られました。アダムにエバを与えられた理由はアダムが寂しがったからではありません。神様と共にいることは、全て満たされている状態なので、アダムに満足がなかったわけではありません。それでも、神様がアダムにエバを与えられたのは、周りの人々をコミュニケーションを取りながら生きることを願っておられたからです。

結局、私たちにはこの二つの関係が人生の核心となります。愛する皆さん、周りに会話が必要だったり、助けが必要な人に愛の手をさし伸ばしてみてはいかがでしょうか。もしかすると、その助けやコミュニケーションを切実に待っているのではないのでしょうか。益々個人化されていく世の中で、信仰を持つクリスチャンとなることを祈ります。